

川遊びの心得

最近では夏になると川や海など、水辺遊びの事故のニュースが必ずと言っていいほど流れます。そういった背景もあってか、水辺で遊ぶ機会が子どもたちから失われています。

僕は水辺遊びが大好きな子どもで、学生時代から専門に学んだのが魚類と水生動物、そして今もそれを仕事にするくらいですから、そういう現状を残念に思っています。

馬入水辺の楽校がある相模川でも同じような水難事故があり、周辺の学校では遊ばない、近づかないようにするという指導がおこなわれていると聞いています。

そういった状況に対して、①親水性が高く、安全に近づけ、安全に遊べる水辺づくり、②生きものがたくさん見られる豊かな水辺づくり、③安全に楽しく遊ぶ方法を学ぶ機会を作る、という3つの方法が考えられます。すぐに始められるのは、③の安全に楽しく遊ぶ方法を学ぶ機会づくりです。

馬入水辺の楽校では、毎年、川遊びのイベントが開催されます。自然を楽しむだけではなく、ライフジャケットの正しい着用方法や浮かび方、スローロープの取り扱い、危険個所に関する注意などを学びます。ほんの少しの注意と装備で水辺遊びは、より安全になり、グッと身近なものになります。

0 熱中！川遊び ヤギ島探検ツアー

ライフジャケットの使い方を体験したり、魚捕りなどを楽しみます。(毎年6月に実施)



ナイトハイク

あたりが薄暗くなる頃、ブオツ、ブオツとウシガエルが不気味に響きます。水辺の楽校は夜になると雰囲気が一変し、野生の世界になります。コウモリが空を飛び交い、セミの幼虫が地中からはいでてきます。暮らしの近くの冒険体験の始まりです。



(CH)

夜の観察会

静かに自然と向き合しましょう。大きな声を出したり、走り回ったりすると、生き物の鳴き声や気配に気がつきません。

【安全管理】

- ①事前に見下ろすなど、安全管理に気を配りましょう。
- ②一人では危険です。グループで行動しましょう。
- ③リーダーの指示に従い行動しましょう。
- ④安全管理者を先頭と真ん中、最後尾に配置しましょう。
- ⑤雷が鳴ったら直ぐに楽校から出ましょう。
- ⑥マムシや蜂などがいます。ブッシュの中には入らないようにしましょう。

【お勤めの季節】

8月中旬～10月上旬。セミの羽化は8月中旬頃、鳴く虫は8月下旬～

【開催時間】

17:30～19:00頃。暗くなる前に集合し、辺りの変化を観察しましょう。

【服装・持ち物】

長袖、長ズボン、帽子、水筒、軽食、雨具、防虫スプレー、ライト（生き物を驚かさないよう赤いセロハンをつける）、救急用具。

落ち葉や朽ち木、石の下などをひっくり返してみる



マルカメムシ



コガタスズメバチ



クビキリギス



ダンゴムシやワラジムシたちの常連さんに交じって、テントウムシやカメムシなど、普段、地べたや地面の中にはいないような生きものが隠れて春を待っています。

馬入水辺の楽校にはエノキの大木がたくさん残されていますが、エノキの葉を食べて、その落ち葉の中で冬越するゴマダラチョウの幼虫探しは子どもたちを魅きつけます。冬越しをしているコガタスズメバチの女王蜂を朽ち木の中から見つけることもあります。

隠れた生きものたちを探すのは宝探しのようでとても楽しい自然観察です。寒い日にも出不精にならずに、地べた探検に出かけてみましょう。

執筆：(株)ピオトープギルド 三森典彰



わらじボード

コンパネなどを地面に敷いておくと、いろんな生きものがすみつきます。アカネズミのトンネルも見られます。ワラジムシがすみつくことから浜口先生がワラジボードと名付けました。ムカデがいることがあるので噛まれないよう、注意しましょう！

カニもザクザク出てくるゾ・・・石の下を探してみよう

水辺の楽校は相模川の河口に近く、川の水と海の水が混じり合う栄養が豊富な水域で、汽水域と言われます。汽水域には生物が多く、特にカニの種類と生息数は卓越しています。主に陸上を歩き回っているクロベンケイガニやアカテガニなど、ベンケイガニの仲間の他、水中の石の下を網でさぐると、モクスガニやアリアケモドキなどが採集できます。



モクスガニ (モクスガニ科) 8.0cm

内湾や河川に分布し、海と川を行き来する大型のカニ。相模川では上流域から河口付近まで生息している。はさみに房状の毛が密生し、名前の由来になっている。水辺の楽校では川を遡上中の稚ガニから成体まで普通に見られる。



アリアケモドキ (スナガニ科) 2.0cm

河川の下流から河口域に分布するが、本県の生息地は限定され、相模川河口が最大の生息地である。水辺の楽校付近は、特に個体数が多く、普段は石の下や泥の中に潜っている。外見は特徴のないカニであるが、腹側は鮮やかなオレンジ模様があるので、多種との区別は容易である。



ケフサイガニ (モクスガニ科) 3.0cm

内湾や河川の河口域に分布する。相模川では河口から寒川堰付近までが、主な生息域である。モクスガニほど大きくないが、オスのはさみには毛の房がある。



ヒライソガニ (イソガニ科) 3.0cm

転石のある海岸や岩礁に多いカニであるが、河口域にも生息し、水辺の楽校でも普通種である。甲は前方にやや広がり、体色は変異に富み、緑色や褐色、白色など様々である。